

### シンポジウム3 「イノベーションと医療」

外科医療機器（手術用硬性内視鏡と手術用デジタル顕微鏡）の最新状況

ソニーオリンパスメディカルソリューションズ 横井靖裕

ソニー・オリンパスメディカルソリューションズは、ソニーとオリンパス両社が保有する豊富な技術と医療における知見を融合しつつ、ソニーの業務用機器を応用展開し、医療機器・映像機器の統合ソリューションを目指している企業です。

医療における技術革新が求められる今日、外科手術の世界では、低侵襲で安全な手術が求められています。そのための外科医療機器として、硬性内視鏡や手術用顕微鏡があります。硬性内視鏡を用いた内視鏡下手術は、低侵襲であることから近年急速に普及し、さまざまな分野で標準術式として定着しつつありますが、限られた視野や奥行き感の中での施術が求められます。一方、手術用顕微鏡を用いた手術では、奥行き感や拡大画像は得られるものの、接眼を長時間にわたり覗かなければならないこと、また接眼により術者の姿勢が制限されるなどの負担があると言われていました。これらの外科医療機器において、術者の負担を軽減し、さらに手術を安全に行うための技術が必要不可欠となってまいりました。

私たちの技術を活用した外科医療機器ならびに手術環境によって、術者の臨場感をもって「見たい」という要求に応え、術者が期待する視覚の提供を目指しています。内視鏡および手術用顕微鏡をはじめとした外科医療機器、手術環境に対して、3D/4K など先進のイメージング技術を駆使することにより、これらの課題解決、ひいては、有機的に連携する革新的な医療機器への技術の提供を通じて、術者の負担軽減と手術室の運用効率の向上に貢献出来たらと考えております。

そのような中で、このたび、「医療とイノベーション」というシンポジウムの企画を持ってこられた研究者の方々が、一様に、「百聞は一見に如かず」とおっしゃったことで、社会学研究というより、広く、社会の諸課題を医療画像、映像から考えていただく素材として提供できればと思い、参加します。私たちがこれまで培ってきた技術やその実際の運用を画像や映像としてお見せすることで、それぞれの研究者の「医療」やその周辺の諸研究課題に関して、さまざまなことを考える契機になっていただければと思います。